

産学共同研究による要素技術の探求と社会 インフラ産業の発展に貢献する生産体制

1963年に各種変圧器メーカーとして創業し、現在では電源機器、電子機器、車両用制御装置、計装用制御盤などの設計から製造、試験、保守に至るまで、一貫した生産体制で製品ライフサイクルを総合的にサポートしている。IoT技術やものづくり技術の高度化にも注力して技術力の強化に努めている。生産拠点を中国にも展開し、グローバルな視点にたち、製造サービスを総合的にサポートする体制を整えている。

●所在地 東京都羽村市神明台4-8-39

●電話/FAX 042-553-1311/ー

●URL <https://www.ichikawa.co.jp/>

●代表者 代表取締役社長 市川 博士

●設立 1963年

●資本金 4,800万円

●従業員数 218名



大学との共同研究、国内事業でのコア技術でビジネスを拡大

信州大学との共同研究によりトランス要素技術を開発。これに車両装置事業で培った技術とトランス製品の相乗で、高度な車両用インバーター制御ユニット技術を確立。高圧絶縁、高耐ノイズ、衝撃・振動などの課題を実現する開発力、技術力、製造力、品質力、コスト競争力と販売力を持ち、小型ゲートアンプ用トランスは、ニッチ市場で高いシェアを占めている。工学分野の技術を応用して、信州大学と共同で医療分野のモニタ装置を開発。緊急医療現場や脳外科施設の監視モニタとして期待されている。



2018年に導入した3次元外観検査装置

製造サービスから課題解決・提案型ビジネスへ事業を発展

電子機器における組込プログラム開発をベースに、システム開発に発展させ、さらにIT技術を導入して装置からシステムユニットにビジネスを拡大。2000年代より中国パートナー企業を開拓し、2010年に中国・上海に現地法人（上海市市川電気科技有限公司）を設立。成長が見込める海外の鉄道や電力市場へ販路を拡大。現在は、中国現地での保守事業を展開し、顧客ニーズを総合的にサポートするビジネスモデルに転換。M&Aによりトランスメーカーとの経営統合を実施し、国内トランス事業を強化。



中国・蘇州におけるトランス製造拠点

IoT化推進室を設立して、ものづくり体制の改革に取り組む

ものづくりの現場において、作業者の改善要求に応える生産システムと製造技術を継承するナレッジベースが必要である。そのため製造技術を理解したIT技術者を独自で育成している。2018年にIoT化推進室を立ちあげ、先端のIoT技術をものづくり現場へ積極的に展開して、製造力強化に着手している。独自で開発したデジタル手順システムは、製造手配・図面表示・工程管理・動画手順を一元化するものであり、製造業務のフレームワークとなり、生産効率を進めている。



デジタル手順「iM-Manager」